

農林水産大臣政務官

藤木 真也 様

国の施策等に関する 提案・要望書

(令和元年11月)

鳥取県自治体代表者会議
鳥取県地方分権推進連盟

鳥	取	県	知	事	平	井	伸	治
鳥	取	県	議	会	藤	繩	喜	和
鳥	取	県	市	長	深	澤	義	彦
鳥	取	県	市	議	山	田	延	孝
鳥	取	県	町	村	宮	脇	正	道
鳥	取	県	町	村	秦	伊	知	郎
議	会	議	長	会	長	長	長	長

台風第19号被害等を教訓にしたため池・果樹産地の 防災・減災対策の強化について

《提案・要望の内容》

- 防災重点ため池の安全性を確保するとともに、下流域の災害発生時の人命・財産を守るため、ため池整備及びハザードマップ作成の早急な推進に向け、防災・減災対策予算を十分に確保すること。
- 台風などの強風がもたらす収穫期の梨やりんごの落果は、収量減や品質低下などの気象災害につながることから、果樹産地の防災・減災対策の強化に向け、果樹農家が取り組む多目的防災網等の導入に対する支援対策を講じること。

＜参考＞

【ため池関連事業の要望額】

事業名	区分	県要望・配分額（国費ベース）（単位：千円）			
		R元要望額①	R元国割当額	R2 要望額②	対前比②/①
農村地域防災減災事業	ため池整備・耐震点検等	581,061	576,880	910,850	156.8%
農業水路等長寿命化・防災減災事業	ハザードマップ作成等	44,950	44,950	131,500	292.5%
	計	626,011	621,830	1,042,350	166.5%

※令和元年度は「臨時・特別の措置」を含めた金額

〈県内のため池総数〉 1,164箇所（うち防災重点ため池320箇所）

【果樹農家などから求められる対策】

結実期から収穫期までの間、台風による強風はもとより、様々な気象災害から果樹・果実を守る果樹園全体を覆う多目的防災網等の導入支援

〈各ステージで期待される効果（生育期間中にあらゆる災害から果実を守る）〉

災害名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
霜害	←			→			開花前後～幼果期（着果不良、品質低下）			
雹害	←			→			（果実損傷、葉の破れ）			
台風害	※本県主要品種の二十世紀と新甘泉の出荷時期：8/下～9/中 ←									

〈令和元年台風第19号による収穫期の梨の被害〉



強風による梨の落果被害（鳥取市福部町）



知事による被害梨園現地視察（鳥取市福部町）

〈台風などによる梨等農作物の被害状況〉

	主な台風災害	梨等の被害状況
H29	台風第18号(9/17)、台風第21号(10/22)	0.82億円（梨、ブロッコリー、白ねぎ等）
H26	降霜(4/15)、台風第19号(10/13)	4.06億円（梨、柿）
H23	台風第12号(9/3～4)	3.37億円（梨、ブロッコリー、ニンジン等）

【本県独自の農林水産業強靱化推進プロジェクト活動の展開（令和元年11月～）】

度重なる台風（第15号、第19号、第21号）による国内の甚大な被害を教訓に、県民の大切な生命を守るとともに、基幹産業である農林水産業の強靱化推進を目的としたプロジェクト活動を展開していく。

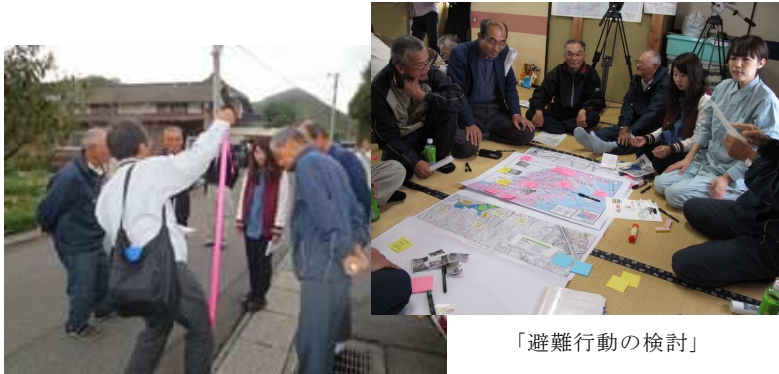
1 ため池の防災プロジェクト活動

ワークショップを通じたハザードマップ作成を進めることにより、地域の防災意識の向上を図る。

○台風や豪雨などによるため池災害の未然防止のため、避難判断基準、効果的な避難訓練、貯水位等観測機器の研究、防災情報の共有化、ため池の管理手法等を検討。

○県が浸水想定区域図を作成して市町や管理者へ提供することで、早急な住民の避難行動を確保するとともに、市町によるハザードマップ作成の加速化を図る。

住民参加によるワークショップ
（被害を認識し緊急行動を検討）



「現地確認」

「避難行動の検討」



「ハザードマップ」
（鳥取市玉津地区）

2 園芸品目の防災・減災プロジェクト活動

効果的な多目的防風網（構造、網素材等）の研究、既存ハウスの強靱化対策、農作物栽培の技術対策（排水、防除）等を検討していく。

〈果樹産地の多目的防風網のイメージ〉



蚊帳のように果樹園をすっぽり覆う多目的防風網

日米貿易協定等を踏まえた農林水産業対策の強化について

《提案・要望の内容》

- 日米貿易協定の合意内容はもとより、国内農林水産業への影響等について、農林漁業者も含め、政府による丁寧な説明を行うこと。
- 国内農林水産業への影響が生じないように、国際競争力の強化に向け、生産者による生産コスト削減や収益力向上に向けた取組の早期推進を図るため、畜産クラスター事業、産地パワーアップ事業、スマート農業関連実証事業及び水産物輸出拡大関連事業など、現場ニーズの高い支援メニューについて十分な予算を確保するなど、万全な対策を講じること。

<参考>

【競争力強化に向け、現場で求められる対策】

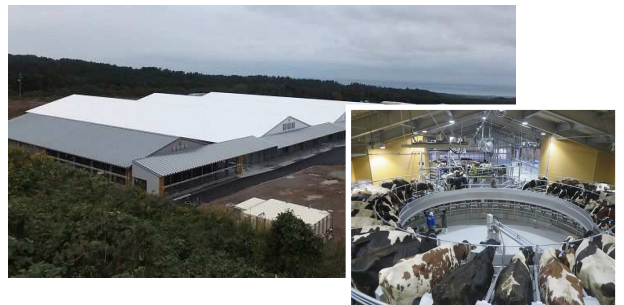
- 1 「畜産クラスター事業」を活用した大規模牛舎等整備による「肉質日本一」の鳥取和牛の増頭や生乳生産量の拡大

〔鳥取県における取組事例〕

- 平成30年3月にJ A鳥取いなばが400頭規模の肥育牛舎等「いかり原牛舎」を整備。
- 平成30年2月に県畜産農協等が出資した(株)みんなの牧場が600頭規模の酪農場「みんなの牧場」を整備（県畜産農協は「みんなの牧場」で生まれたホルスタイン雄牛や交雑種を肥育）。
- 令和元年10月に(株)ブッシュクローバーズ（大山町）が600頭規模の酪農場を整備。
- 令和元年7月及び9月の県和子牛セリ市場における子牛1頭あたりの平均価格が日本一。



「いかり原牛舎」（和牛肥育400頭）
(H30.3完成、鳥取市)



「(株)ブッシュクローバーズ」（乳用牛600頭）
(R元.10完成、大山町)

- 2 「産地パワーアップ事業」を活用した「鳥取型低コストハウス」導入や施設整備等による園芸品目の生産拡大

〔鳥取県における取組事例〕

- 令和元年産スイカ販売額は出荷の前進化や6月にG I登録された「大栄西瓜」のPR等により、昨年30億円をさらに上回る31.7億円。
- 平成28年3月にG I登録された「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」の令和元年産販売額は、昨年より出荷量が増加したことから約4千万円増の9.6億円の実績。



「低コストハウスにおけるスイカの収穫作業」
(R元.6、北栄町)



「らっきょう加工処理施設」
(H30.3完成、鳥取市)

3 「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」を活用したスマート農機やICT等先端技術を取り入れた「スマート実証農場」の整備

〔鳥取県における取組事例〕

○今年度から県内3箇所にスマート農業実証農場を設置し、省力化及び低コスト化の効果を検証

①(株)ファームイング(日南町)

ドローンによる水稻直播、可変施肥田植機、リモコン式自走草刈機、収量計測コンバイン等

②(有)田中農場(八頭町)

ドローンによる生育診断と収穫後の土壌中の地力計測

③(株)福成農園(南部町)

衛星画像による生育診断、水位センサーによるスマホ等への水位情報配信



ドローンによる肥料散布
(R元.7)



リモコン操縦式自走草刈り機による法面作業
(R元.7)



収量計測コンバインによる収穫作業
(R元.10)

4 「水産物輸出促進のための基盤整備」を活用した「境港高度衛生管理型市場」の整備による水産物の輸出促進

〔境港高度衛生管理型市場の整備状況〕

- ・事業期間(総事業費):2014年度~2023年度(185億円)
- ・整備状況:本年6月1日から中核的施設の1号上屋と陸送上屋を供用開始。残る中核的施設は2021年に完成予定。

〔境港水産物ブランド化〕

- ・3月に新市場のシンボルマークとキャッチフレーズを決定。
- ・首都圏や関西圏など大規模消費地での小売店で販売される水産物のパッケージに新市場のシンボルマークを使ったシールを貼るなどして、水産物の活きの良さをアピールしている。

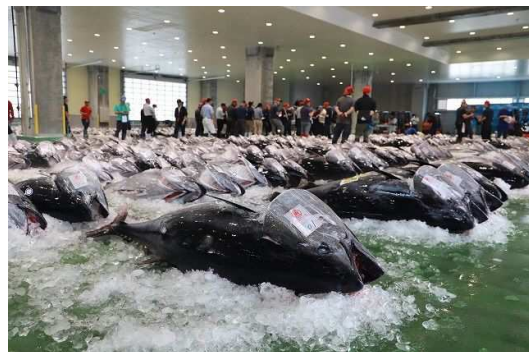
シンボルマーク



キャッチフレーズ
「安心と安全が、
進化するみなと。」



供用開始の陸送上屋 (R元.6)



市場でのマグロのセリの様子 (R元.7)

5 その他必要な対策

- ・「農業農村整備事業」による区画整理及び畑地かんがい整備等
- ・「合板・製材・集成材国際競争力強化対策」による路網整備や機械化支援等
- ・「水産業競争力強化のための漁船導入に対する対策」による沖合漁船の代船建造支援

豚コレラなど家畜伝染病の被害防止対策の強化について

《提案・要望の内容》

- 豚コレラの蔓延防止に向けた「ワクチン接種推奨地域」での飼養豚への予防的ワクチン接種について、国が責任をもって都道府県の意向を十分に踏まえながら進める仕組みとするとともに、「ワクチン接種推奨地域」については、野生イノシシの感染状況等を踏まえ、隣接県において予防的な対応が可能となるような設定を行うこと。
また、ワクチン接種に係る経費について国が全額を負担すること。
- 豚コレラに感染した野生イノシシの発生県周辺での封じ込めを徹底し、豚コレラのまん延を防止するため、国が主体となり、野生イノシシの経口ワクチンベルトの形成や散布地域の拡大に伴い必要となるワクチン数量の確保に取り組むとともに、野生イノシシの捕獲圧を高めるなどの取組を更に強化すること。
- アジアで感染拡大しているアフリカ豚コレラのほか、高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病の国内侵入を防止するため、国際線が就航する地方空港やクルーズ船等が寄港する海港での検疫体制強化など水際対策を徹底すること。

<参考>

1 本県独自の豚コレラ対策の取組

○養豚農家での防疫対策

- ・農場へのイノシシ侵入防護柵や防鳥ネットなどの野生動物の侵入防止対策支援
- ・消石灰、ネズミ駆除薬剤の配布による小動物対策など

○野生イノシシの捕獲圧強化

- ・農場への感染リスクを減らすため、野生イノシシ捕獲頭数を増やす取組支援

○野生イノシシ検査体制の充実

- ・検査機器や検査キットを追加配備し監視体制を強化。
これまでに119頭を検査し、全頭の陰性を確認



養豚場に設置した防護柵（左）と防鳥ネット（右）
（鳥取県若桜町）



養豚場での消石灰散布作業（鳥取県南部町）

2 本県提案による中国地方各県と連携した野生イノシシ捕獲対策の強化

- 中国地方で豚コレラ感染地域に最も近い本県と岡山県は、両県合同の「野生イノシシ捕獲強化期間」（1月～2月予定）を設定し、捕獲圧を高めていく。
- 11月中に、中国地方5県による「野生イノシシ捕獲対策WG（仮称）」設置に向けた調整会議を開催予定。